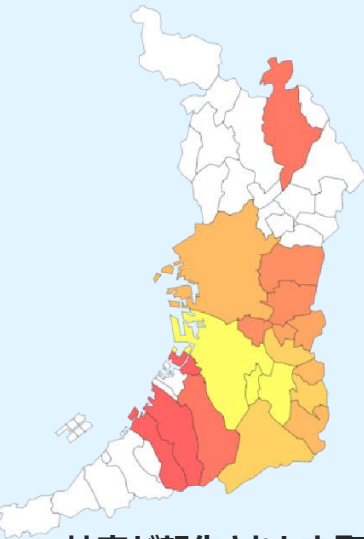




特定外来生物 クビアカツヤカミキリの 被害拡大防止にご協力ください



被害が報告された市町村
2015 2022 初めに被害が報告された年度

「クビアカツヤカミキリ」(右上)は、幼虫がサクラ・モモ・ウメなどのバラ科の樹木に入り込み、**内部を食い荒らし枯れさせます。**

2012年に日本国内で初めて被害が確認され、全国各地で急速に分布を拡大。2018年1月には「**特定外来生物**」に指定されました。

大阪府内では2015年に初めて確認。2023年3月時点で**19市町村**において被害が確認されています(左図)。クビアカツヤカミキリの幼虫がいる樹木の幹・枝・根からは、**フラス**(幼虫のフンと木くずが混ざったもの)が大量に出ます。



被害木の目印「フラス」

成虫やフラスを発見したら・・・

- ・**成虫を発見したら、その場で踏みつぶして駆除してください**
※成虫や卵・幼虫などを生きたまま持ち運ぶことは、外来生物法により禁止されています
 - ・**フラスの被害を発見したら、すぐに管轄の市町村に相談してください**
 - ・**土地や施設の管理者の方は、速やかに駆除・対策をお願いします**
- 被害がさらに拡大すると
モモやウメの深刻な農業被害や、サクラを見られなくなる可能性があります



早期発見・早期対策が極めて重要 みなさまの協力が大きな力です



環農水研ホームページでは被害の**見つけ方**や**駆除**などの方法を「**手引き**」や**動画**でご紹介しています

